東洋・日本美術史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
東洋・日本美術史特論Ⅰ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	1	月曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	1	水曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅲ	霊獣表現のルーツを探る	2	植村 慎	1	集中講義
東洋・日本美術史特論Ⅳ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	2	月曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	2	水曜3限
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	作品調査演習—『清涼史略』を読む	2	杉本 欣久	1	水曜4限
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	作品調査演習	2	杉本 欣久	2	水曜5限

科目名：東洋・日本美術史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：長岡 龍作

コード：LM11307, 科目ナンバリング：LIH-ART601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2・授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、仏教の世界観とそれを表象することの意義を述べた後、飛鳥寺代から平安時代までの仏教的世界観とそれを表象する美術について論じる。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
- 2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
- 3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
- 4. 奈良時代の仏教的世界観と美術 1
- 5. 奈良時代の仏教的世界観と美術 2
- 6. 奈良時代の仏教的世界観と美術 3
- 7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 1
- 8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 2
- 9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 3
- 10. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 4
- 11. 平安時代撰関期の仏教的世界観と美術 1
- 12. 平安時代撰関期の仏教的世界観と美術 2
- 13. 平安時代撰関期・院政期の仏教的世界観と美術 1
- 14. 平安時代撰関期・院政期の仏教的世界観と美術 2

5. 成績評価方法：レポート [50%]、出席 [50%]

6. 教科書および参考書：参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021 年

7. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ

曜日・講時：水曜3限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13306, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相に

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト

2 回目 狩野派の系譜 1—御用絵師・正信から元信へ

3 回目 狩野派の系譜 2—永徳と桃山の大家

4 回目 狩野派の系譜 3—探幽と江戸狩野の確立

5 回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派

6 回目 英一蝶と英派の絵画

7 回目 京の町絵師 1—俵屋宗達から宮崎友禅へ

8 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山

9 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山

10 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明

11 回目 武士の絵画 1—鑑戒

12 回目 武士の絵画 2—暢神

13 回目 対外交渉と長崎派

14 回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派

15 回目 美術史と鑑定

5. 成績評価方法： 授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何

を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：植村 慎

コード：LM98827, 科目ナンバリング：LIH-ART603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：霊獣表現のルーツを探る

2・授業の目的と概要：古代中国において、龍や鳳凰に代表される霊獣は、宇宙観の形成や山岳信仰・昇仙思想の高まりなど、儒家や道家の思想の展開を背景に、時代・王朝によって異なる姿を見せてきた。この講義では、唐代以降の中国や、中・近世の日本の美術作品の題材となる霊獣が、先史～古代にはどのような姿で描かれ、そこにはどのような思想が込められていたのか、霊獣表現のルーツを探り、またその変遷観を構築することを目的とする。

3. 学習の到達目標：霊獣表現のルーツを探り、またその変遷観を構築することを目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 霊獣のルーツを探る方法1 -図像学
3. 霊獣のルーツを探る方法2 -型式学
4. 霊獣に付随する表現1 -山岳
5. 霊獣に付随する表現2 -雲気
6. 四霊のルーツ1 -龍と鳳凰
7. 四霊のルーツ2 -鳳凰と麒麟
8. 四霊のルーツ3 -鳳凰と亀
9. 四神の世界1 -鳳凰から朱雀へ
10. 四神の世界2 -玄武と北辰の神々
11. 四神の世界3 -相対する龍・虎
12. 仙岳と神獣1 -崑崙の西王母と鳳凰
13. 仙岳と神獣2 -蓬萊と鶴・亀
14. 西域の奇獣 -獅子と符拔
15. 子孫繁栄の象徴 -双魚と鯉

5. 成績評価方法：レポート（70%）、講義への参加態度（小課題含む、30%）

6. 教科書および参考書：石谷 慎『秦漢遺宝 -器物に込めた願い』（黒川古文化研究所・研究図録シリーズ6、2019年）

岡村秀典『鏡が語る古代史』（岩波新書、2017年）

林巳奈夫『中国古代の神がみ』（吉川弘文館、2002年）

山本堯・実方葉子『瑞獣伝来 -空想動物でめぐる東アジア三千年の旅』（泉屋博古館、2020年）

渡辺素舟『東洋文様史』（富山房、1971年）

7. 授業時間外学習：博物館・美術館の展示を訪れる際、あるいは展示図録を見る際には、霊獣表現に注意し、細部まで観察する習慣を身につけることが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ

曜日・講時：月曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：長岡 龍作

コード：LM21306, 科目ナンバリング：LIH-ART604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2・授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と深く関わる北宋時代の美術を紹介した後、鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1. イントロダクション
- 2. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像
- 3. 奄然の入宋と五台山文殊菩薩像
- 4. 北宋・遼美術の諸相—盧舎那仏・釈迦如来・五百羅漢
- 5. 北宋・遼美術と日本
- 6. 盧舎那仏と観音—奈良時代と鎌倉時代
- 7. 盧舎那仏と阿弥陀—重源の思想と美術
- 8. 笠置寺の美術—貞慶の思想と美術
- 9. 経蔵と文殊菩薩像
- 10. 仏像の納入品と重源の思想
- 11. 春日信仰と美術
- 12. 東国の生身仏像
- 13. 明恵の思想と高山寺の美術
- 14. 叡尊と忍性の思想と美術
- 15. 華嚴思想と美術

5. 成績評価方法：レポート [50%]、出席 [50%]

6. 教科書および参考書：参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

7. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V

曜日・講時：水曜3限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23307, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観して

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけでなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 2 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 3 回目 江戸と浮世絵 1 一師宣・祐信・春信一
- 4 回目 江戸と浮世絵 2 一蔦屋重三郎と写楽・歌麿一
- 5 回目 江戸と浮世絵 3 一北斎・広重一
- 6 回目 京都と円山派 1 一円山応挙一
- 7 回目 京都と円山派 2 一応挙の門人たち一
- 8 回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10 回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 11 回目 江戸の絵画 1 一18 世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 12 回目 江戸の絵画 2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 13 回目 伊藤若冲 一その真実を探る
- 14 回目 東北の絵画一美術史の問題と研究の可能性

5. 成績評価方法： 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画―中国絵画の受容と文人精神の展開―』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：作品調査演習一『清涼史略』を読む

2・授業の目的と概要：美術史という学問においては、まず作品を観察して情報を読み取り、分析することから始めなければならないのは言うまでもない。ただ、制作者の人生そのや思想を知ることなしに、作品を正しく解釈するのが難しいのも一方の事実である。それゆえ、作品資料と文献資料を車の両輪のごとく用い、単なる印象批評に終始しないよう歴史学として正しい手続きを踏む必要がある。とはいえ、翻刻出版されていない史料を読みこなすには、日常的に古文書に触れて馴染んでおくことが必要であり、美術史といえども、史料を博搜して新たな事実を見出していくためには

3. 学習の到達目標：古文書に対する認識を高め、読解のためのスキルを養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、受講生が担当箇所について調べてきたことを発表する。それに対して質疑応答の時間を設ける。

5. 成績評価方法：発表と出席回数によって評価する。

6. 教科書および参考書：特になし

7. 授業時間外学習：次回の発表箇所について、受講生全員が文字を解析しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23509, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：作品調査演習

2・授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

あわせて年度末に附属図書館の多目

3. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクターおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目以降 どのような作品を対象とするかはその都度、相談しながら設定することとする。

5. 成績評価方法： 十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

7. 授業時間外学習： 日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。